



関西支部報

http://www.jackansai.com

一 永年会員のつぶやき

金井健二

少子高齢化社会の進展に呼応するように日本山岳会でも会員の高齢化への懸念が問われるようになって久しい。更にそれに平行するように会の財政が厳しくなってきたのも周知のことである。

つい先年、永年会員の仲間入りを果たしたばかりの私には、少子高齢化社会が日本の年金制度の財政上の重要課題になっているのと、永年会員制度が日本山岳会の財政上の重要課題として問題視されているのがダブって見えていた。永年会員制度による会費免除は、云ってみれば日本山岳会のささやかな年金制度かなとも考えていたからである。

日本の年金制度の破綻を防ぐため、給付開始年齢の引き上げや消費増税など様々な対策がとられているが、日本山岳会としても、近年の経常会計の赤字対策として、永年会員の会費免除制度への再検討が論じられるのもやむを得ないと思う。しかし、会の財政再建が喫緊の課題であることは理解できても、黒字化への素案として「聖域なき経費削減」、「永年会員制度の定款変更提案」と続き、定例となっていた「新永年会員の年次晩餐会への招待」も廃止が決められたと聞くと、永年会員制度が経費

削減策の筆頭案件として槍玉にあげられているようで、何となく永年会員いじめの感じがしてくる。

永年会員制度は、長年の功績を称えようと50年前に導入されたという。男性の平均寿命が60才代とされた時代に制定された代物で、平均寿命が80才以上に延びた現代にはそぐわないとの異論も強かった。50年前といえは1965(昭和40)年前後である。その頃は日本山岳会のマナスル登頂で始まった第一次登山ブームがピークの時代であったように思う。海外渡航が厳しく制限されていたこの時代、日本山岳会は海外遠征登山のインフォメーションセンターとしての機能と、そのノウハウを併せ持った唯一の権威ある山岳会であった。従って、海外遠征を夢見る多くの若者が入会した。しかし、高度経済成長の結果、誰でもが海外遠征登山を実行できる時代に移行すると共に、日本山岳会は日本で最も古い伝統を誇る本来の山岳会の姿に戻り、その矜持を理解できる会員だけのものとなった。そして、会員であることにメリットを感じなくなった会員の多くはやがて会を去って行った。即ち、現在の永年会員は、その50年以上も前の若いころに入会し、半世紀もの間、愚直に会費を払い続け、会の財

目次

| | | |
|-------------------|------------|----|
| 一 永年会員のつぶやき | 金井健二 | 1 |
| 平成28年度新年会報告 | 嶋岡 章 | 3 |
| 著者と語る会報告 | 松上美代子 | 4 |
| 関西支部と私 | | |
| よき人たちとの繋がりをもって | | |
| 私にとっておきの山行 | 水谷弘治 | 4 |
| 支部山行報告 | 中島 隆 | 5 |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 秋月修次 | 6 |
| 関西支部県境縦走33 | | |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 浅田博三 | 7 |
| 関西支部県境縦走34 | | |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 松村竹次郎／松村文子 | 6 |
| 関西支部県境縦走36 | | |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 岡田輝子／野口恒雄 | 8 |
| 関西支部県境縦走35 | | |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 小林京子 | 9 |
| わんぱく探検 | 蓮川博凡 | 10 |
| ゆるやか山行「里山探訪」 | 新本政子 | 10 |
| レスキュー講座 | 中山和美 | 11 |
| 関西支部県境縦走36 | 嶋岡 章 | 12 |
| 4000山グランプリ | 黒田記代 | 13 |
| 「本山寺山森林づくりの会」活動報告 | 黒岩敦子 | 13 |
| 東お多福山草原生物多様性ガイド | 山内幸子 | 14 |
| 養成講座 | 秦 康夫 | 15 |
| 追悼 松浦輝夫さんのこと | 田島聖子 | 16 |
| 自己紹介 | 米本隆夫 | 17 |
| 還暦過ぎでのアルパイン修行 | | |
| 入会メッセージ | 永井 和 | 18 |
| 会務報告 | 武藤文隆 | 19 |
| 第4回委員会議事録 | | |
| 第5回委員会議事録 | | |
| 新入会員 | | |
| ルーム日録 | | |
| 受贈一覧 | | |
| 支部山行計画 | 16年4月～6月 | 21 |
| 自然保護行事 | 16年4月～6月 | 23 |
| 編集後記 | | 24 |

政を支えてきた会員である。従って年齢的にも大多数は80才前後であろう。登山で鍛えてきたとはいってもいわゆる後期高齢者である。財政難対策の第一標的にするのはいささか敬老の念にも欠けているように感ぜられる所以である。

永年会員制度を考察するには、二つの視点から検討してみる必要がある。永年会員の年齢的側面と、入会から50年という長期在籍会員の在籍率という側面からである。

まず年齢的側面から。80才前後という年齢は、平均寿命が延びたとはいえ、いつ物故してもおかしくない年齢である。永年会員の増加は、一面では物故永年会員の増加とも表裏をなすので今後も永年会員が増え続けるということはある得ない。現に関西支部に縁の深い三枝礼子、住吉仙也、松浦輝夫の諸氏(いずれも永年会員)も亡くなった。

次に、同じ年度に入会した会員のうち、50年を経て永年会員に到達した会員の在籍率も見てみたい。自身の例で恐縮だが、1961年度に入会した私の場合、50年後に新永年会員になったのは40名と比較的多かった。しかし、同年度の入会者152名に対する割合は約26%である。即ち50年の間に約3/4の同期会員が会を去ったことになる。新永年会員が49名に達した1964年度の入会者は169名であるから約29%、やはり約7割の同期会員が会を去っている。

念のため、手持ちの記録を調べてみた。資料が少ないので不正確かもしれないが、会員名簿の2003年版と2008年版、「山岳」の会務報告の人事欄からの類推である。

先ず年齢的側面から。2003年発行の会員名簿によれば、永年会員は102名であった。次に「山岳」をみると、山岳2007では、新永年会員34名、物故永年会員13名で永年会員数は+21となり、この頃より永年会員数が急速に増え始めることになる。近々5年の「山岳」では、
山岳2011：新永年会員30名 物故永年会員18名 +12
山岳2012：新永年会員40名 物故永年会員13名 +27
山岳2013：新永年会員28名 物故永年会員21名 +7
山岳2014：新永年会員46名 物故永年会員18名 +28
山岳2015：新永年会員49名 物故永年会員28名 +21
と疑いもなく新永年会員が増え続けている。

次に、永年会員の在籍率という側面については、会員名簿2008年版の入会年度別会員番号一覧から類推した。これも近々5年の新永年会員の在籍率を見てみた。

1960年度入会：179名 永年会員数：30名 在籍率：16.8%
1961年度入会：152名 永年会員数：40名 在籍率：26.3%
1962年度入会：138名 永年会員数：28名 在籍率：20.3%

1963年度入会：192名 永年会員数：46名 在籍率：24.0%
1964年度入会：169名 永年会員数：49名 在籍率：29.0%
即ち、50年以上会員であり続けた人は入会者の3割にも満たない数字である。云ってみれば会費免除は、年金というよりは50年勤続者へのささやかなボーナス制度のような気がしてきた。

「山」12月号に創立110周年の年次晩餐会のルポが報じられていた。この1年の物故会員は山田二郎元会長をはじめ55人だったという。新永年会員は36名だそうであるがおそらく同数くらいの物故永年会員がおられたのではなからうか。私は神崎忠男さんの新永年会員代表としてのご挨拶と全く同じ思いを抱いた。

本稿の締切日が近づいてきたころ「山」1月号が届いた。財政再生委員会によると、現在5,000人強の会員数の中で400名近くの永年会員をかかえることになり、これは会員の約8%にもなり、財政上もはや限界であるという。「永年会員から実費相当費用の徴収」、即ち「山」と「山岳」の実費、年6,000円徴収案が組上に載せられていた。「断腸の思い」とは云うが、紙面では50年間、愚直に会を支え続け、今や高齢になった永年会員への思いやりは余り感じられなかった。それより、まず退会者を減らす方が先決ではないかとの率直な思いもある。

さはさりながら、会務運営上、現実にもどうしても実費相当分の徴収が必要と云われて、拒否できる永年会員はおそらくいないであろう。永年会員はおおむね神崎さんが云われたように「JACの会員で素晴らしい登山人生が送れた」と感謝し、今後も会員であり続けたいと思っているだろうし、50年目のご褒美がなくなっても、永年勤続のボーナスが減額されても「よき友、よき仲間、よき先輩・後輩にめぐりあえるよきクラブであってほしい」と願っているだろうから。私もその一人である。

新年会参加者一覧

青木昭 新本政子 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 大島義広 大津陸郎 大塚宏閑 大西康郎 岡田輝子 斧田一陽 加藤芳樹 金井健二 金井良碩 清瀬祐司 釘本武昌 久保和恵 黒田記代 小島一喜 小寺佳美 薦田佳一 阪下幸一 佐野加代子 鹿田勝 重廣恒夫 嶋岡章 城隆嗣 竹中雅幸 辻和雄 中川委紀子 中村久住 西尾俊子 野口恒雄 野村珠生 橋本圭之輔 秦康夫 平井一正 広瀬健三 廣田猛夫 前田正彰 松仲史朗 松村文子 水谷透 宗實慶子 宗實二郎 村田かおり 茂木完治 山内幸子 山本一夫

計49名

平成28年度 新年会報告

嶋岡 章

日時：平成28年1月27日(水)18：30～20：30
 於：大阪梅田「大東洋」

平成28年新年会は定刻6：30、新本政子さんの司会ではじまりました。

まず最初に金井良碩支部長代行の挨拶があり、昨年は「関西支部設立80周年行事」があったこと、今年は、日本山岳会創立110周年・関西支部設立80周年記念事業として「東ネパール・カンチェンジュンガエリアのナンガマリⅡ峰からⅠ峰(6547m)への縦走登山隊」派遣を計画しているので、会員の協力を要請されました。

ついで横浜から駆けつけられた佐野加代子さんの乾杯の音頭で宴会がスタート。中華料理の前菜から御馳走に舌鼓をうちました。

司会は新本さんから村田かおりさんに交代し、初参加者の紹介があり、昨年、会員になられた岡田輝子さんと、京都・滋賀支部から移籍した私が紹介され一言ご挨拶申し上げましたが、いささか気恥しい思いをいたしました。

重廣恒夫前支部長からは県境縦走山行への参加要請について、東ネパール登山隊予定者の紹介がありました。それをうけて、竹中雅幸隊員と山本一夫登攀隊長から決意表明がなされ、さらに城隆嗣評議員から激励の詞があり、平井一正評議員からも「映画エベレスト3D」を例にあげて“チームワークこそが成功の秘訣”とアドバイスがありました。

新年会の終盤ちかく、特別参加のアルパインツアーサービス(株)大島義広氏から「ベトナム最高峰ファンシーパン登頂と世界遺産ハロン湾クルーズ8日間」のPRがあり、参加者との愉快的な質疑応答で笑いがおこりました。また、重廣恒夫前支部長からも参加要請がありました。

最後に中村久住大阪府山岳連盟会長が締め挨拶に立たれ、新年会は盛況裡のうちに終了しました。

欠席者のたよりから

◎元気でやっておりますが、遠方ですので欠席させていただきます。 **13382 赤山伸夫**

◎相変わらず元気に過ごしております。関西支部の会合には極力出席するつもりですが、今回はヤボ用の為失礼させていただきます。会の発展を祈っております。

10802 新井 浩

◎低山歩きを月2回程度続けています。JAC関西支部の行事は80周年記念行事以外は参加しておらず申し訳なく思っています。今年はゆるやか山行とスケッチ同好会に参加させてもらおうと思っています。よろしくお祈りします。 **11592 黒田守彦**

◎ランタンプロジェクトと称して2011～2015年ランタン谷の山を順に登りに行きましたが、クレバス等、雪の状況が悪く、ことごとく失敗の連続でした。 **5127 佐々木惣四郎**

◎日本山岳会関西支部のご発展と、皆様のご清祥をお祈りします。新年会のご盛會を祈ります。 **5590 塚崎義人**

◎和歌山国体山岳競技が終わり、報告書も全て出してホットしています。 **6815 遠山誠之介**

◎本年86歳足が弱くなり歩行がままなりません。総会、新年会に出席したいが大阪駅迄2時間は余りにも遠く残念です。 **4486 三木 亮**

◎大阪に行く機会がありませんので欠席とさせていただきます。本部のアルパインスキークラブの山スキーには、昨年より参加して関西支部の方とも交流させてもらっています。東京多摩支部では多摩百山の本を出すので、その取材山行に積極的に関わっています。なんとか沢登り、山スキーに付いていっています。 **7373 水谷弘治**

◎8年半のブランクを経て、ようやく山行を開始しました。JACは若い人たちの入会が増え、関西支部も会友の皆さんが多くなり、新しい節目を迎えつつあるよう

平成28年度 関西支部総会のご案内

日 時 平成28年4月20日(水)午後6時30分

場 所 ホテルグリーンプラザ大阪

ANNEX 5階

議 事 ①平成27年度 活動報告、会計報告

②平成28年度 活動計画、予算

③その他

懇親会 午後7時30分より 会費 5,000円

* 4月13日(水)までに同封のハガキにて出欠をご返事ください。

ん、吉永さん、京都の薬師義美さんと大先輩の諏訪多栄蔵さん宅へ本の整理に伺ったことも懐かしい。

私は2006年に東京の八王子に転居したが、その直前、支部の沢登りで大峰・旭の川不動小屋谷の沢登りに参加した。その時、河野直子さんからアルパインスキークラブへの参加を勧められた。そのうち日本山岳会の支部組織が活発化し、私も東京多摩支部の行事に参加することが多くなっている。また、山スキーのメンバーとも交流

ができ、ASC全国集會に顔を出すと、河野さん、新本さん、安井さん、廣田さんなど、大阪ではあまり顔を合わさなかった人達とも親しくなって嬉しいかぎりである。

このように私の関西支部との接点は、人との繋がりが主だったと改めて気付かされる。今後も皆さんとの「繋がりを大事にしていきたい」と願っている。

(会員番号7373 2016/1/23受)

私にとっておきの山行 お気に入りの山「大峰・釈迦ヶ岳」●●●●●●●●●● 中島 隆

平成12年の夏季懇談会にて写真同好会の話が纏まり、二回目の山行で11月大峰・釈迦ヶ岳へ、参加13名でマイカーにて走る。以前の釈迦ヶ岳は国道169号線の池原ダムに懸かる前鬼橋を渡り、前鬼川沿いダートの狭い林道を二時間半の歩行で前鬼に、此処で一泊、釈迦ヶ岳往復で前鬼橋バス停へ。

今回の新しい登山口は国道168号線旭口から林道、旭線、栗平線と約20km、奥吉野発電所までは舗装されているが、其処から先は未舗装のガードレールもない狭い山際のダート林道で、右側の山肌から落石がある。宇無ノ川沿いに登りにつれ不動谷沿いに変わり不動谷登山口に、新しい林道は先へ延びて峠へ、此処が新しい太尾の登山口である。

平成16年に奥吉野発電所から登山口まで全舗装が完成して、登山口駐車場には屋根に太陽光発電パネル付のトイレが設置されたが、翌年には故障したのか外され、現在は普通のトイレに変わっている。現在は旭口登山口と言われている、此処から山頂までは約3時間で登れる。

旭口登山口から少し急な岩混じりの道を標高差140m程で尾根1434mに到達、此処からは道も緩やかに1465mで旧不動谷登山口からの道と合流、小休止し、此処からも古田ノ森1618m、千丈平1573m迄は緩やかな登り下りで、高木も少なく天気が良ければ見晴らしの良い山稜歩きになり、初心者でも楽に歩ける道で、千丈平にはテントサイトもあり、このコース唯一の水場もある。このテントサイトは花瀬の「ほんみち教修道場」の若い人達が良くテントを張っている。

千丈平からは右に深仙ノ宿への分岐もある。山頂へは段々急登になり、山頂直下に深仙ノ宿分岐、此処が奥駈道で南へ降ると深仙の宿に、此処までくれば山頂は直ぐ。

山頂から宿分岐を左折し深仙ノ宿へ、此処から大日岳は往復20分で往ける。帰りはトラバース道を千丈平へ。

大阪から日帰りで深山の稜線歩きが楽しめるので通う様になる、毎回山頂のお釈迦様を礼拝する裡に、いつ頃かお釈迦様の様子が気になる。

平成18年にはお釈迦さんの姿がなくなり、翌年8月23日に登った時には、お釈迦さんも元の位置に立っておられ、山頂に着いた際にはガスに覆われて景色は見えなかったが、30分程で雲も流れて快晴になり、青空を背景にお釈迦さんが映えて見えた。この時に初めて釈迦像台座をカメラに収めて来た。



大峰奥駈道稜ノ鼻付近からの釈迦ヶ岳

水曜会のご案内

【会 場】 支部ルーム18：30～

【開催日】 4月13日(水)、5月11日(水)、6月8日(水)

【申 込】 開催日は変更になる場合があります。参加予定の方は、開催前月末までに担当者宛て実施日の確認と参加連絡をお願いします。

担当：水谷透 jacmztn@yahoo.co.jp

【報 告】

11月11日(水) 登山教室中級・上級の沢登り 出席5名

12月9日(水) ディオ・ティバ峰 出席16名

1月13日(水) 本山寺山森林づくりの会 出席6名

支部山行報告

支部山行15-19 ゆるやか山行「里山探訪」
歴史と文化を訪ねる25
北摂・妙見山

秋月修次

9月24日(木)雨

今日は雨模様で、当初大野山への計画でしたが、リーダーから大野山(巨石めぐり)は足元に不安な所があるとの事で能勢妙見山へ変更の提案があり、協議した結果変更することになりました。

全員で妙見口駅へ移動。「上杉尾根コース」をとり、小雨の中の山行になりました。適度な登りがずっと続き、久しぶりの山行にはいい足慣らしです。途中、眺望が開け、黒川の里山が見えたり、所々にある石灯籠を見つけたりと退屈のしない登りです。さらに進むと少し開けた場所にきました。昔、妙見山への参拝者が休んだ「八丁茶屋跡」です。その少し先にはベンチが置いてありました。そこからの眺望は良くて雨の山行をしばし忘れさせてくれます。

緩やかなアップダウンを繰り返して行くと炭焼き炉があり台場クヌギ林がでてきました。赤松林の分岐を頂上目指して進みます。ここからは急坂です。この急坂をクリアすると広い駐車場に出てきました。駐車場を過ぎ鳥居をくぐって能勢妙見山へ。大きな三角点の看板があり、その看板の足もとに看板とは対照的に小さな四等三角点660mがありました。大きな看板と小さな三角点の対比が少し可笑しくもありました。すぐそばには能勢妙見山日蓮宗の信者の方が休憩や写経をされる変わった形のガラス張りの建物『星嶺』があり、その横を過ぎた能勢妙



協議する参加者 写真提供：魚津清和

見山の絵馬堂休憩所を拝借し、雨宿りの昼食です。

昼食後雨も少し小降りになる中、ケーブル沿いのルートを下り、大堂越へ。大堂越を過ぎた所で、すぐ近くに振野山三角点があるとの事。有志でその振野山を目指します。距離は短いですが急坂で、足元が滑り易く注意をしながらの登りです。三等三角点(点名・野間)547mを確認して戻り、下で待っていたメンバーと合流してケーブル黒川駅へ向かいました。黒川駅を通過し、能勢電妙見口駅に全員無事到着しました。自然の中を歩くという事で「雨もまた楽しからずや」です。皆様、雨の中ご苦勞様でした。

【コースタイム】

妙見口駅09:44—10:02上杉尾根取付—10:48八丁茶屋跡—11:35妙見山頂—11:45本堂横休憩所12:46—13:15大堂越分岐—13:46振野山—14:02大堂越分岐—14:53妙見口駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子
釘本武昌 薦田佳一 嶋岡章 戸島泰三郎 中谷絹子
橋本圭之輔 広瀬健三 松波幹夫 森沢義信 (会友)青木昭 秋月修次 岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキエ 中田栄 播戸日出生 蓮川博凡 (会員外)浅田博三 計24名

支部山行15-20 関西支部県境縦走33
空谷橋～ポンポン山～柳谷聖苑～十方山
～桂川右岸

松村竹次郎／松村文子

10月3日(土)晴

JR高槻駅からバスで空谷橋へ。金木犀の香る空き地で準備体操し、山道に入る。藪もなく快適な道が続き、やがて三角点唐谷着。その後も快適な杉木立を進む。ここで“熊に注意!!”の貼紙を見る。その後何度も見ることになるのだが、10人以上の賑やかなパーティに緊迫感はない。休憩を二度程して青空広がるポンポン山(加茂勢山678.83m)に到着。手をポンポンと叩く人、飛び上がる人も居たが、誰がこんな名を付けたのだろうか。今回最高点の山である。記念撮影の後、次を目指す。2ヶ所の高圧鉄塔を通過し釈迦岳(善峰)へ、ここで昼食。1年で最も爽やかな気候のこの頃は、山歩きに限らず快適に過ごせる日和だ。そんな下での昼食は手弁当が一番似

合う。沢を横切り数回の上り下りを繰り返す、見晴し抜群の高圧鉄塔下で暫しの展望を楽しむ。府道79号線を少し歩き、再び山の中へ。突然目に飛び込んだのが山の中に聳えるコンクリートの建造物だ。どうやら霊園を補強する一部らしいが何とも奇異だった。少し藪を漕ぎ、本日の予定到達点「柳谷聖苑」着。迎いのタクシーに分乗し、阪急・西山天王山駅にて解散。(松村竹次郎)



釈迦ヶ岳で通過地点の確認 写真提供：松村竹次郎

10月4日(日)晴

少し参加者が入れ替わって西山天王山駅に集合。タクシーで柳谷聖苑。本日の行程は、山道を少し歩いた後、車道に出、その車道の進んだ先にある細い谷に沿った山稜末端の採石場跡から縦走を再開する。ロープを結び互いに足場を確かめながら脆い岩場を登り、急斜面から照葉樹林の山稜部に出てホッと一息つく。緩やかな尾根を上下しながら、かつては田畑であったろう開けた土地に出る。朽ちたビニールハウスもある。複雑に屈曲した府境を金網沿いに左右に進路を求めながら歩く。少し登った台地の上で昼食とする。前日に比べると雲が増え少し蒸し暑い。同じような植生の山中を歩き、三角点のある十方山(点名・山王山304.3m)に到着。この三角点がかつて天王山山頂にあったと言う。十方山からの下りで再びロープを結びザレた堅い斜面を横切って鞍部に出る。緩やかに上下しながら、昔は筍を生産していたと思われる孟宗の竹林に突入。成長した孟宗竹の太く大きい事。それらの竹が折り重なって倒れ、酷い状態だ。この中を乗り越えたり、潜ったりしながら進む。足の下は名神高速道の天王山トンネルだ。時折車の音が聞こえてくる。悪戦苦闘の末やっと山麓の住宅街に出る。市街地を暫く歩きJR東海道線の地下道を潜り、R171を渡り淀川に合流する桂川右岸に降り立つ。今日はここを離脱点とし解散し、各人JR・阪急に分かれ家路に着く。(松村文字)

【コースタイム】

3日 空谷橋08:40—10:45ポンポン山11:00—11:45釈迦岳
12:10—14:22府道79号線—15:45柳谷聖苑

4日 柳谷聖苑08:30—12:20十方山12:25—15:22JR地下道
—15:45桂川離脱点

【参加者】

重廣恒夫 久保和恵 黒田記代 立野里織 橋本圭之輔
松村文字 山内幸子 (会友) 松村竹次郎 若林朋世
(3日のみ) 秋枝秀實 新本政子 前田正彰
(4日のみ) 岡田輝子 野村珠生 松仲史朗 山本義博
(4日のみ・会友) 青木昭 (4日のみ・会員外) 岩田雅一

3日12名 4日15名

支部山行15-22 ゆるやか山行「里山探訪」

歴史と文化を訪ねる26

六甲山系・布引貯水池から森林植物園

浅田博三

10月22日(木)晴

関西に住んでもう50有余年、若き頃六甲山にも度々訪れたが、今回の“布引の滝”は行った事が有ったような無いようなと思ひながら、集合場所新神戸駅前に。出発！新幹線ガード下をくぐると溪谷の水音が聞こえ、間もなく雌滝手前広場に着いた。ここで柔軟体操。毎度のことながら老体には、イタツタ…疲れた一で完了。本格出発！雌滝・鼓滝・雄滝と続き、そして見晴らし台。左右に木々が茂り180°の視界はきかず、逆三角形で神戸港が眼下に。多少霞がかかった状態で、市街地・六甲アイランド・神戸空港、そして大阪南港。霞が無ければ遠く関西空港も望める事だろう。しかし驚き！と言うのは展望目線よりも高い感じで超高層ホテルが2棟。多少違和感？これも神戸ならでは、と楽しむ。

さて、まだ登り始めたばかりだが、階段状の上りが足に堪える。目の前が開けたところで布引ダム。神戸市民の水源「五本松堰堤」と言っても五本の松は確認できない。布引溪流が“名水百選”であり、このダムは“ダム湖百選”に選ばれている。ダム湖の展望台からも逆三角に開けた視界で、風船を逆さに吊るした形のロープウェイの Gondola が現れてゆっくりと離合して行った。天気が良ければ Gondola の向こうにはきっと青い海が美しく輝いているだろう。

ここからの道は比較的なだらかに進む。中には登山靴に日傘で散歩気分の女性とも遭遇。まさに市民に“愛される里山”だ。谷の流れとしたたるもみじの道、紅葉の

時季はいかほどか！その頃に再度訪れたい気持ちにさせる素晴らしい風景だ。急に目の前が明るくなり河原へ出た。渡る木橋に「河童橋」の札。「上高地」？ここで全員にての写真撮影。ぼつぼつお腹が空いたなあー。森林植物園東門入口手前で時間はすでに12:40。やっとこの河原で昼食。各自石ころの座り心地を選んで“至福の昼食”。その後、東門から野鳥の森中を料金所へ。傍の長谷池ではほんの一部紅葉がきれいに進んでいた。園内で解散。三々五々散策して予定のバスに乗りし、帰路についた。六甲山系これぞ里山、素晴らしいゆるやか山行でした。



色づき始めたトエンテイクロスを行く 写真提供：魚津清和

【コースタイム】

新神戸駅09:35—09:40雌滝手前広場09:53—10:13見晴らし台—10:44布引貯水池—11:08市ヶ原—11:51河童橋—12:40森林植物園東門手前13:12—13:31東門料金所—13:52森林植物園内解散

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子
清瀬祐司 戸島泰三郎 野村哲夫 橋本圭之輔 秦康夫
平井一正 広瀬健三 松上美代子 松村文子 森沢義信
宗實慶子 (会友)秋月修次 岐部明弘 木村早苗 田中
アキエ 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 (会員外)浅
田博三 佐藤知仔子 計25名

支部山行15-23 関西支部県境縦走34

橋本駅～洞ヶ峠～交野CC～羽衣橋～仙女橋

岡田輝子／野口恒雄

10月24日(土)晴

京阪橋本駅に集合し、県境合流点へ。淀川の中央を走

る県境が左岸に上陸する地点を確認後、広い土手にて準備体操をする。見上げるとハングライダーが飛んできて、手を振っている。今日は樟葉在住の松波幹夫氏の先導で樟葉住宅地の県境を辿る。町中歩きと思いきや、金網の隙間をくぐり、カバーを被せた畑を歩き、いきなり藪に突入。生い茂った木を踏んでもバネのように跳ね上がり行く手を阻まれる。泳ぐように前へ、前へ、蔓に足を取られて、やっぱり県境縦走ならではの道なき道歩きとなった。

太陽照りつける中、住宅街のアルファルト道の起伏もこなし、円福寺の竹藪へ。眼下には、立派な道路が走っているが、県境は藪の中。古竹を乗り越えて、崖沿いを進んで洞ヶ峠に到着。小休止の後は、またまた藪へ。美濃山小学校前で昼食をとり、一息ついた。県境から少し外れるが鉄塔の下からの眺めが絶景と立ち寄る。第二京阪道路沿いに歩き、枚方CCへは入れないため国道307号線を歩く。いわゆるダンプ街道と呼ばれている交通量の多い砂埃だらけの道を歩き、3名リタイヤ。県境に戻り、藪の中の三等三角点・天王や三国境である三叉路を越え、バリケードがきつく交野CCに入れず県境を離脱したそうだ。

(岡田輝子)

10月25日(日)晴

JR津田駅よりタクシーで交野CCクラブハウスを南に下った府道7号線の切通しに向かう。奈良県生駒市との境となっており、準備体操後、法面のブロックを登って稜線に上がる。ヤブは薄く、境界の杭をたどる。県境という人為的なラインを辿るので稜線上をたどれば良いとは限らない。里山なので尾根筋が見極めにくい。地図に無い墓地に出て、荒れ地を横切るとお地蔵さんが祀られている榜示峠に出た。生駒市のスポーツセンターはフェンスで区切られているが、右側は大阪府民の森・くろんど園地なので、遊歩道が現れたりする。ハイキングコースとの交差点からは関電の管理道で稜線に上がり第10鉄塔で昼食にする。きさいちCCの縁を通過して本日唯一の三角点・八丁岩(266.7m)に至る。踏み跡から少し外れていたが見当を付けて探し出し、ゴルフ場脇で拾ったロストボールを供える。その後、県境から外れ林道を少し進んで倉庫のようなところから風化した急斜面を直登して県境に復帰。怪しげな造成地の横を通過して第2鉄塔から国道168号脇の羽衣橋にやっと出た。予定時間より大幅に遅れている。あとは天野川を遡上する。時間も押ししており生駒山までは無理なようでのどり切り上げようかと考えながら稲刈りも終わっている田園地帯を、ひたすら歩く。一度は天野川が西に流れを変えるところ切

り上げようかとの話も出たが、次回との接続を考えて更に歩く。県境が土手から離れているので畦道を辿ったり、対岸に渡ったりして仙女橋に到着する。ここで県境を離脱し、バスにて生駒駅に出た。(野口恒雄)

【コースタイム】

24日 橋本駅08:05—08:11県境合流—10:34洞ヶ峠茶屋—11:55美濃山小学校前12:25—12:43鉄塔分岐—13:05枚方CC—15:14府県境点合流・山道入口—15:55天王—16:40三叉路—17:07府県境離脱

25日 県境復帰点08:40—09:36榜示峠—10:05くろんど池入口—11:23鉄塔12:05—13:02八丁岩—14:39羽衣橋—15:54仙女橋

【参加者】

山内幸子 黒田記代 松仲史郎 (会友) 松村竹次郎 (24日のみ) 水谷透 松波幹夫 野村珠生 松村文子 岡田輝子 (会友) 青木昭 若林朋世 (25日のみ) 久保和恵 野口恒雄 (会員外) 岩田雅一 24日11名 25日7名



洞ヶ峠通過 写真提供：青木 昭

**支部山行15-24 4000山グランプリ
神南山、壺神山、牛ノ峰、障子山**

小林京子

11月7日(土)曇

前日から徳島入りした関西支部の皆さんと、四国支部3名の計12名は、5時に徳島を出発した。松山から清家さん、大洲から松村竹次郎さんが合流し、大洲盆地の南に位置する大きな双耳峰ともいえる神南山を目指した。東が五十崎神南山、西が新谷神南山だ。

林道二股地点から西寄りに駐車し、東の五十崎神南山へ向かう。林道の途中から尾根に乗った。小石交じりの急斜面で足元が滑った。上部の林道に出て更に斜面を登ると、アンテナの立ち並ぶ五十崎神南山に到着。頂上近くのパラグライダー発着地からの展望は素晴らしく、南に高知県境の四国カルストが望めた。西に稜線を辿り、林道に出た後、急坂を登れば新谷神南山だ。強盗亀が潜

んだという洞窟を過ぎると、神南山大権現の社があった。北側に大洲盆地の展望が開け、子供会の遠足だという一団は、地形の勉強の最中だった。天辺を雲で隠した壺神山が、盆地を挟んで北西に見えた。昼食休憩後、駐車地まで戻り、壺神山に向かった。

壺神山への林道は道幅が狭く、運転には細心の注意が必要だった。ほぼ頂上近くまで林道は続き、下車して少し歩けば頂上だった。一等三角点にも係らず展望がない。駐車地まで戻り、近くの壺神神社に立ち寄った。壺が御神体で、天水の神様だという。御籠り堂の奥に、思ったより可愛らしい石壺が鎮座ましましていた。大急ぎで林道を下り、長浜町で買い物を済ませ、双海町の「潮風ふれあいの館」へ、伊予灘沿いの道を急いだ。晴れていれば夕日の絶景が見られるそうだが、残念ながら曇り空だった。久保さん提供の野菜湯豆腐を中心に、各自の持ち寄り食料での楽しい宴は、夜更けまで続いた。

11月8日(日)曇一時雨

5時に起床。宿舎背後の山に続く林道を牛峯地蔵尊まで上がり、小雨の中歩行を開始した。海からゴージャスと強い風が吹いていた。植林地の簡易林道と山道を交互に登って行った。今西錦司氏が干支の山として牛ノ峰に登ったのは昭和60年だった。同行者の一人が若かりし頃の清家さんだ。今西氏に倣い、皆で三角点を囲み、ストックを上下して万歳をした。

牛峯地蔵尊に参拝後、林道を海まで下り、中山、砥部境の障子山へ向かった。北面の鵜崎集落近くに駐車し、集落奥の民家脇からほぼ真直ぐに境界尾根を登った。あごが出るほどの急登の後、ひょっこりと登山道に出た。後は緩やかな道を辿り山頂へ。杉林の中の三角点は一等であるが、展望は得られなかった。昼食後は登山道を下った。駐車地から東麓の砥部町に出ると、障子山が大きな三角おむすびのように見えた。なるほど急登な訳だ。

松山で清家さん、松村竹次郎さんと別れ、車3台に分乗し、徳島に戻った。

西予の山は、同じ四国にあっても徳島からは遠く、登る機会が少ない。関西支部の皆さんとの交流登山で、西予の4座に登ることができ、楽しい山の思い出がまたひとつ増えた。

【コースタイム】

7日 駐車地09:20—10:19五十崎神南山—12:23新谷神南山—13:18駐車地 = 駐車地14:38—14:52壺神山—15:20壺神神社—15:30駐車地

8日 駐車地07:17—08:00牛ノ峰—08:37駐車地 = 駐車地09:59—10:16登山道入口—11:25登山道合流点—11:52障子

山—13:17駐車場

【参加者】

重廣恒夫 野村珠生 橋本圭之輔 久保和恵 松村文子
 村田かおり 立野里織 岡田輝子 (会友)松村竹次郎
 若林朋世 (四国支部) 尾野益大 清家一明 家段勝好
 小林京子 計14名

支部山行15-25 ゆるやか山行「里山探訪」

歴史と文化を訪ねる27

宮津街道 普甲峠

蓮川博凡

11月12日(木)晴

「普甲峠」とは、あまり耳慣れないが、宮津と福知山を結ぶ古道である。いち早く領主細川家が整えたのを「元普甲峠」といい、その後、江戸初期、宮津藩主京極家が付け替えたのを「普甲峠」と呼んでいる。

さて、当日はJR福知山駅に午前10時50分集合。ついで隣接の京都丹後鉄道宮福線のワンマンカーに乗り換える。参加者があいさつを交わす間にも、異例の車中の昼食となる。座席で弁当を広げ、お茶を飲んで、ちょっとした旅の気分が漂う。長短いくつかのトンネルをくぐり、ひなびた無人駅辛皮(からかわ)へ到着。あたりは緑濃い山並み、田畑の間に集落が点在する、典型的な日本の山里。いきなり異郷へ、タイムスリップしたかと思うほどだった。

駅を出た広場で久保和恵リーダーが「本日は計画がタイトなので、スケジュール通りに運びたい」と促した。ついで森沢義信さんがコースと関連史跡を説明した。そしていつもの準備体操を済ませ、川沿いに歩き出した。ほどなく元普甲峠登山口。杉の植林から自然林を経て、ゆったり登り、40分ほどで峠(412m)へ達した。さらに西へ登って471ピーク。大江山連峰はじめ三方に丹後山地が見渡せ、北側に日本海が開けて名勝「天の橋立」がぴったり見えた。

大江山スキー場のなだらかなスロープを降りたところが普甲峠。金棒を担いだ赤鬼の人形が「ようこそ、酒呑童子の里へ」と歓迎し、古くからの鬼伝説を今に伝えている。

この後、コースは、おおむね下りながら、大名が参勤交代で通ったこともある石畳を確かめながら、京都府道9号(綾部大江山宮津線)と交錯して進んだ。この間、二瀬川溪流の吊り橋から山並みの紅葉を見渡したものの、時期が早くて今一つ。さらに天女が水浴びしたという真

名井ヶ池をのぞき、伊勢神宮関連という伊勢皇大神宮の見物が仕上げ。5時、丹鉄・大江山口内宮駅は、早や日がかげり、丹後は秋色を深めていた。



赤鬼から？史跡説明を受ける 写真撮影：魚津清和

【コースタイム】

辛皮駅11:42—12:35元普甲峠登山口—13:41 P471.1 (△点名不孝峠) 13:51—普甲峠14:14—15:29大江山登山口—16:15真名井ヶ池—16:38元伊勢内宮—16:56大江山口内宮駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓
 金井健二 助川征 戸島泰三郎 橋本圭之輔 広瀬健三
 松上美代子 松村文子 宗實慶子 宗實二郎 森沢義信
 (会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキエ
 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 (会員外)浅田博三
 計23名

支部山行15-27 関西支部県境縦走35

仙女橋～生駒山～十三峠～高安山～三室山～大和川

新本政子

11月28日(土)晴

今月は阪奈道路を越えて生駒山頂から大和川へと至る行程である。

前回の離脱点仙女橋から天野川に沿って進み、阪奈道路の下をくぐり抜けて電源開発(株)の鉄塔に至ってやれやれと小休止。三等三角点「岩の奥」を確認後、住鷹大神神社横から近畿自然歩道に出てほっと一息。トライアルのグループに出会っては、その岩場走行の妙技にしばし見惚れて拍手を送った。聖天口料金所通過後、関電生駒無線中継所、三等三角点「笹の谷」を経て生駒山へとひたすら進む。山頂の一等三角点は遊園地のミニSL列(12Pにつづく)

支部山行 15-26 わんぱく探検 (山の日関連行事)
本山寺山の森にて

中山和美

11月15日(日)雨のち晴

その日は朝から波乱含みの始まりようだった。大阪駅に着いたら、吹田～京都間が事故で運休。JR組の参加者たちは急きょ阪急に乗り換え、茨木市駅からトコトコ歩いて集合場所のJR茨木駅へ。噂では山に入る前から道迷い者が出たとか出ないとか。



次に、挨拶のときすっかり「うちのバカ息子」と紹介しちゃったために息子が「怒ってごめまくり、「もう行かない!」と言い出した。なんとかなだめすかして、本隊より遅れること20分で駐車場を出発したのだが、途中行き違って、我々親子は、またも行方不明になりかけた。(皆さま、その節はほんとはご迷惑をおかけしました…)

さて、無事本山寺で合流できたその後は、雨模様だった天気も回復し、紅葉がきらきらと輝き始める中、「本山寺山森林づくりの会」の方に、ノコギリの使い方、木の倒し方等のレクチャーを受けた。木を切る時は「自分が倒したい方向に倒す」のが大事なんだそう。わんぱく小僧達は、ノコギリを手に各々真剣に試し切り。

ゴトンと落とした切り株を、全員が「これ持って帰る!」。あー。言うと思ってたよそれ……。

試し切りが終ったら移動して、さあ、本番。枯れて落ちそうな枝を落としたり、死んだ木を倒したりして森を整備する—はずが、作業中の大人たちを横目に、小僧どもはキャンバラ三昧。なにしろ「剣」は合いたい放題だ。休むことなく、エネルギー全開で駆け回っている。



それでも最後は全員で、大きな木を1本、レクチャー通り、受け口の下→受け口の斜め→追い口、の順に切り目を入れてロープを掛け、力を合わせて引き倒した。メリメリという音とドーンという重低音のあとに広がった濃い木の香りに驚いた。倒した後は材樹齢をチェック。小僧どももこのときばかりは興味深そうに切り株を覗きに来る。一緒になって年輪を数えている大人の顔も、なんだかちよっぴり少年っぽい。何歳の木だったかは…残念ながら忘れてしまった。

帰り道、淡路島、大阪平野、和歌山を見晴らす展望が気持ちよかった。小僧どもはそれぞれに気に入った枝を持ち帰ると騒いでいる。今日は、私は息子に振り回されっぱなし、息子は作業もせずに遊びっぱなしだったけど、それも含めて、とても「わんぱく探検」な1日でした!



【コースタイム】

参拝者駐車場 10:30—

11:00 本山寺 11:15—11:55 本山寺山 14:10—

14:25 本山寺—14:45 参拝者用駐車場

【参加者】「本山寺山森林づくりの会」報告 p16参照



鐘の鳴る丘展望台より生駒山 写真提供：重廣恒夫

車の線路の環の中に鎮座していた。往時伊勢参宮街道であった暗峠で一等水準点を確認後、鳴川峠を経て生駒縦走路を十三峠に到達。途中の鐘の鳴る丘展望台では晴天に恵まれて眺望を存分に楽しめた

が、平群駅に着く頃には釣瓶落としの陽はとっぷりと暮れていた。

11月29日(日)晴

タクシーにて県境復帰。十三峠のお地藏さまに今日の無事を祈願して三等三角点「経ヶ塚」へ。信貴生駒スカイラインに沿った県境を晩秋の景色を楽しみながら航空保安無線施設を経て二等三角点「高安山」に至る。信貴山公園墓地・高安山霊園と広大な霊園に驚きながら霊園展望台で昼食。四等三角点「南畑」確認後、「タケヤブ内立入禁止」の看板に県境通過を遮られる事もあった。奈良学園大学の脇へと下り抜けて又しても霊園を横切ることとなり、やっと到達した三室山には龍田古道の標識が立っていた。今日はさながら霊園徘徊のようであったが大和川沿いに亀瀬岩へと進み行程を終了、河内堅上駅にて解散となる。お土産に赤い烏瓜の実ふたつ。

【コースタイム】

28日 仙女橋08:45—09:15阪奈道路通過点—13:29生駒山山頂—14:08暗峠—14:47鳴川峠—16:03十三峠

29日 十三峠09:19—10:03航空保安無線施設—11:45高安山霊園展望台—14:34三室山—15:56亀瀬岩

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 岡田輝子 久保和恵 黒田記代
野口恒雄 松中史郎 松村文子 村田かおり 山内幸子
(会友)松村竹次郎 黒岩敦子 若林朋世 (28日のみ)岩崎しのぶ 立野里織 野村珠生 前田正彰 松波幹夫
(29日のみ)(会員外)岩田雅一 28日18人 29日14人

支部山行15-28 ゆるやか山行「里山探訪」

歴史と文化を訪ねる28

京都一周トレイル 伏見・深草ルート

嶋岡 章

12月10日(木)曇のち小雨

平成27年最後の「ゆるやか山行」。今日歩く伏見・深草ルートは京都一周トレイルの最南部にあり京阪伏見桃山駅前にある道標に“No.1”の番号がしるされている。

駅前から東上。御香宮神社に立ち寄り登山の安全を祈願する。東上をつづけ乃木神社へ。境内でSL山内幸子さんのリードにより恒例のストレッチ。本日の参加者は35名にのぼるのでCL久保和恵さんの指示で、ここからは2班にわかれて行動する。

つぎに立ち寄ったのは豊臣秀吉の伏見桃山城。華麗な天守閣が二つ、だがこれは昭和39年に再建されたものである。紅葉の美しい伏見北堀公園をぬけ、八科峠の石碑を通過し大岩山展望所にのぼっていく。わずかなのぼりだが息がはずむ。

大岩山展望所(166m)は眼下にさきほど訪れた伏見桃山城はじめ京都市街が一望で、その先には左からポンポン山、釈迦ヶ岳、小塩山それに内田嘉弘氏が大枝(江)山と想定されている大暑山などの山並みが一望である。ここで昼食とする。

昼食を終え大岩山から大岩街道をくだり名神のガード下をくぐり白菊の滝にあがっていく。この白菊の滝は予想とは違い細いパイプでひいた裨用のものである。ここから京都一周トレイルを外れ、通称稲荷山三角点にむかって急峻な階段道をあがる。途中で休憩を1回はさむほど急峻だった。三等三角点(点名：西野山239.0m)の前で集合写真を撮ってすぐ下山。赤い鳥居の立ち並ぶ参道を若干のぼって一ノ峯神社へ。これが稲荷山の山頂(233m)とされている。参道を下り四ツ辻へ。ここで京都一周トレイルに合流。ここは京都市街が一望の展望台でもある。あとは大勢の観光客にまじって伏見稲荷大社に下るだけだ。このころから小雨がおちてきた。

有志31名はJR稲荷駅から京都にでて駅前の京都アバンティB1「十二季家 歓」で忘年会。おおいに盛り上がり今年の最後をしめくくった。来年もよろしく願います。

【コースタイム】

伏見桃山駅10:08—10:46乃木神社11:00—11:13伏見桃山城—11:57大岩山展望所12:34—13:36白菊の滝13:51—14:11西野山14:30—14:48稲荷山—15:42伏見稲荷大社拜殿—15:

56稲荷駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 魚津清和 内田喜弘 内田昌子 浦上芳啓 金井健二 薦田佳一 嶋岡章 戸島泰三郎 中島隆 野口恒雄 野村哲夫 橋本圭之輔 秦康夫 平井一正 広瀬健三 松上美代子 松波幹夫 松村文子 水谷透 森沢義信 山下政一 (会友) 秋月修次 岐部明弘 小林三喜男 田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 (会員外) 浅田博三 新井幹子 矢萩利江 計35名



御膳谷奉拝所前で憩う 写真提供：魚津清和

支部山行15-29・30 レスキュー講座

黒田記代

1. 山のファーストエイド 心肺蘇生と応急手当

2015年12月13日(日)10:00~14:30

会場：大阪市立青少年センター 多目的室

講師：日本赤十字社救急法指導員 本村仁氏

内容：救急法短期講習<救命手当・応急手当コース>

午前中の救命手当講習では、ダミー人形を使用して胸骨圧迫と人工呼吸法を練習後、心肺蘇生とAEDを用いた除細動の手順を学習し、ダミー人形を使って一人ずつ全員が手順に従って実地練習を行った。午後からは、応急手当法として三角巾の扱い方を学び、頭・腕・膝他の三角巾使用の固定法・巻き方を実地練習した。

【参加者】

岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子 加藤芳樹 久保和恵 黒田記代 関戸京子 田島聖子 辻和雄 野口恒雄 野村珠生 秦康夫 茂木完治 山内幸子 (会友) 羽室靖 横山規江 若林朋世 (会員外) 伊藤淳 栗尾雅恵 小林大治 守田チヨコ 吉岡智和 計23名

2. 座学

2015年12月17日(木)18:30~20:00

会場：梅田東ビル 三階会議室

講師：山行委員

内容：講座1を山で活かすために

現場でのレスキュー対応の考え方を復習後、山行に持参するファーストエイドキットやレスキュー用品について、重廣氏が実際に山行に持参している物品を一つ一つ説明。

最後に、110周年記念講演・シンポジウムで配布された、御嶽山噴火に遭遇し無事生還したガイドの小川さゆり氏の報告書を元に、生死を分けたのは何か?を学んだ。「運」だけではなく、「危険から命を守る行動をどれだけ早くとれたか」が「生死を分けた」と筆者は述べている。

さらに、正常性バイアスの危険性、集団性バイアスの危険性について学んだ。

配布資料：①セルフレスキュー概論 ②山岳レスキュー・応急手当テキスト ③ファーストエイドキットの実例 ④御嶽山噴火に対する思い(小川さゆり氏)

【参加者】

魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子 黒田記代 薦田佳一 重廣恒夫 竹中雅幸 辻和雄 松仲史朗 水谷透 茂木完治 山内幸子 (会友) 若林朋世 計13名

支部山行15-31 関西支部県境縦走36

亀瀬岩~明神山~寺山~穴虫峠~二上山~竹内峠

黒岩敦子

12月19日(土)晴

河内堅上駅を出て見た霜に寒さを実感するが、陽だまりの水仙の花にほっとして歩く。大和川に架かる新亀の瀬橋を渡り、往来の激しいR25を注意深く横断。外気温5℃の表示脇から急な斜面に取り付く。笹藪に悩まされながら厳しいコースを進む。足場の悪いもろい岩場をアンザイレンして慎重に登り、明神山の三等三角点「西山」到着。三角点は蓋付きの四角い枡の中に埋められていた。山頂には立派な展望台があり眺望はよいが先を急ぐ。高く大きい赤白鉄塔には目指す和歌山県の地名がついた御坊幹線No.244の標記。その後、関屋観音で昼食。県境らしいハードな歩きが続き2度目のアンザイレンで教育大横へ降りる。疲れた足で二等三角点「寺山」へ。下山後、夕日に照らされて美しくクロスする鉄塔・送電線に元気ももらって穴虫峠から上ノ太子駅へ。

12月20日(日)晴

今日も放射冷却の冷たい朝だが朝日に向かって気持ちよく歩き、穴虫峠到着。大阪・太子と奈良・香芝の道路標識横の荒れ放題で急な藪に取りつく。大変なコースに「無理と思う者は自己判断で登山道を」という重廣リーダーからの声。アンザイレンしても私にはとても無理！と即決して久保さんら5人でダイヤモンドトレイル北入口から登山道を登る。県境歩きのメンバーとP188で合流。その後は碎石場を避けて県境から外れ、鉄塔巡視路や登山道も歩く。眺望のよい緑の鉄塔下で早めの昼食を済ませ県境に復帰。急峻な登りをアンザイレンして一歩一歩慎重に登る。掴るものもない急斜面では四つん這いになったりしてやっと雄岳登頂。雌岳の三等三角点「女岳」から史跡岩屋に立ち寄り竹内峠に下る。予定時間の遅れや次回コースが検討された結果、今回は竹内峠で終了となり竹内街道を当麻寺駅へ向かった。



明神山の三角点 写真撮影：重廣恒夫

【コースタイム】

19日 河内堅上07:53—08:15新亀瀬橋—10:51明神山—11:32鉄塔No244—12:24関谷観音—15:16寺山—16:14穴虫峠
20日 上ノ太子駅08:24—09:06穴虫峠—10:12 P188—11:50昼食12:20—13:49二上山雄岳—14:12雌岳—15:02竹内峠

【参加者】

重廣恒夫 岩崎しのぶ 岡田輝子 久保和恵 黒田記代
松仲史朗 山内幸子 (会友)黒岩敦子 松村竹次郎 若林朋世 (会員外)松本儀人 (19日のみ)新本政子 松村文子 (20日のみ)立野里織 橋本圭之輔 前田正彰

19日13名 20日14名

15-32 4000山グランプリ

白抜山～鷲走ヶ岳

山内幸子

12月26日(土)小雨後雪

久しぶりに雪の4000山グランプリに参加する。朝一番のサンダーバードで小松駅まで行きジャンボタクシーで手取ダムに向う。ダムを通り越して行き過ぎたので引き返し、手前から西に折れ東二口集落の駐車場に到着。このところ北陸の天気はよくないので予想通り雨の中で出発準備。凍結防止の流水の中を歩き、民家の横から旧道登山口に取り付き、雪の少ない登山道を歩き出す。白抜山への表示板がありよく整備されているようだ。谷筋から杉の植林を抜けると新道の分岐があり鉄塔の案内表示もある。いつの間にか雨が雪に変わり足元の雪も少しずつ多くなって来る。谷筋に沿った道を慎重に歩き、林道を横切り真向かいの登山道に進むと一層雪が多くなって来る。尾根を南下して白抜山に向う。白抜山(891m)頂上には反射板があり記念撮影の後、締まった雪を踏んで順調に進む。尾根をさらに南下し予定のテント場に着いたが、時間も早いので鷲走ヶ岳に向う。登りにかかると雪が少し深くなってきたので海外登山隊メンバーは交代で先頭に立ち2時間休憩なしで鷲走ヶ岳の頂上に出た。二等三角点の石柱は頭を出しており、丸い山名案内板の上にも雪が積もっているだけでまだ埋まってはいない。雪が激しくなってきたのでテント場を探す。

反射板の下を整地してテント3張り設営する。午後4時を過ぎると気温が見る見るうちに下がってきて手が凍えそうだった。雪はますます激しくなってきたがテントの中で女性4人がそれぞれリュックの合間に平らな空間を見つけ、コンロを炊くと直ぐに暖かくなる。それぞれ夕食を作りリーダー差し入れのチキンハンバーグも含め豪華な？夕食を済まし、食後に紅茶、ケーキで満腹に



鷲走ヶ岳にて 写真提供：重廣恒夫

させシュラフに入る。風も出てきたので時々テントが浮きそうになる事もあった。一晩中、風と雪がテントを打つ音が聞こえていた。

12月27日(日)雪後曇

4時起床、それぞれ朝食を食べ6時過ぎに雪がちらつく中、ワカンを着けてヘッドランプを頼りに歩き出す。鷲走ヶ岳頂上に戻り、往路をたどるがトレースはなくなっている。リーダーの適切なコース取りで新雪を歩くキュッキュツと言う音を聞きながら尾根を北東に進み、尾根から離れ林道に下り立つと雪はいつの間にか止んでいた。しばらく林道を歩き登山道に入る。新道分岐の標識を見て、下りは新道をとる。杉林を抜けると人家横の登山口に出た。資料館前の納屋でタクシーを待ち、小松駅に向かった。

天気がよければテント場から白山が真正面に見えたはずである。生憎の雪で展望は全くなく残念だったが、久しぶりに新雪を踏みながら歩いて楽しかった。花が多いと言われている山なので花の季節に登ってみたい。

【コースタイム】

26日 東二口駐車場11:00—11:41新道分岐—12:45林道—13:10白抜山入口—13:46白抜山13:50—13:59鷲走ヶ岳分岐—15:55鷲走ヶ岳16:05—16:35反射板下

27日 キャンプ地06:10—06:16鷲走ヶ岳—07:40林道分岐—08:50新道分岐09:03—09:48新道登山口—10:03東二口駐車場

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 松仲史朗 立野里織 若林朋世
山内幸子 計6名

**「本山寺山森林づくりの会」活動報告
(10月～12月)**

秦 康夫

斧田一陽 宮本廣 倉谷邦雄 中村賢三 薦田佳一 石原順子 福井誠 黒山泰弘 板脇道雄 猪川誠 武田寿夫 秦康夫 計12名

2015年10月1日(木)9:30～12:30

2度に亘って行った植生調査によると、作業地内には84種の本木がある。東海自然歩道沿いの20種程度を選んで樹木名表示札を付けることにしている。作業前に対象木の科名・種名を確認したあと、物置小屋に通じる作業道周辺の枯損木整理作業を行った。道の上を横切り、掛かり木になって斜めに倒れている径30cm程の松には手こずったが、ロープやテコ・クサビ、それに高枝鋸など総動員し、1時間半程かって処理できた。予報通り昼頃から雨が降ってきたので、作業は午前中で切り上げた。

【参加者】

斧田一陽 薦田佳一 倉谷邦雄 石原順子 秦康夫 計5名

2015年11月5日(木)9:30～16:00

前回に引き続き44林班「い」地区の林床整備を行った。午前中に東海自然歩道周辺の枯木の除伐、枯れ枝打ちを済ませたが、平日でもポンポン山への登山者が結構あり、自然歩道周辺ではハイカーへの注意は常に欠かせない。

午後は2班に分かれ、山頂尾根から南に下る小さい谷の両側斜面に移った。主に4本の「高枝鋸」と手ノコを使っての作業だが、急傾斜地なので、伐倒方向と退避場所の位置取り、足場の確保には気を使う。特に枯木は予想外に早く倒れることがあり、要注意である。

この日は小人数の割には作業が捗り0.5ha程度の整備ができた。下山時、手を入れたエリアが“スッキリ”して見えるのは気持ちのよいものである。鹿の目撃1件、本山寺山駐車場で鹿の糞など、奥山に紅葉踏み分ける「鹿」の季節、この冬の食害が気にかかる。(武田記)

【参加者】

斧田一陽 宮本廣 倉谷邦雄 茂木完治 石原順子 丸山喜代司 武田壽夫 計7名

2015年10月18日(日)9:30～15:30

3班に分かれて分担区域を定め、44林班「は」地区一帯の林床整備と東海自然歩道に倒れる恐れのある枯木片付け及び水切り溝整備を行った。

枯木・枯れ枝・落ち枝の整理、枝打ち等は比較的容易だが、太くて重い倒木の始末は厄介である。斜面に倒れている長さ20数m、直径40cm、年輪を数えると70年生位の倒木を、3mずつ程度に切り離し、ロープやテコやフェリングレバー(幹回し機)を使って土留め場所まで移動させるのは大作業だった。

【参加者】

2015年11月15日(日)10:00～15:40

3班に分かれて作業したが、各班とも倒木整理に時間をとられて枯損木除伐は数本に留まり、また枯枝打ちはほとんど出来なかった。それでも、気になっていた太い枯損木4～5本は処理できたし、また斜面に横たわる倒木は大分整理できた。

【参加者】

阪下幸一 黒山泰弘 武田壽夫 倉谷邦雄 中村賢三
宮本廣 小櫃徹夫 福井誠 板脇道雄 石原順子 秦康夫
計11名

◇今回は「おおさか山の日」関連行事として、関西支部恒例の「わんぱく探検」のメンバーを迎えて森林体験学習会を開催した。子供の参加者は3名と少なかったが、11名の作業班とは別行動をとって、会員3名が子供たちと保護者を施業地に案内し、作業状況の見学後、ヘルメットを被り、ノコギリを使っての細い立木や枯損木の伐木などの作業体験をしてもらった。子供たちは結構楽しかったようで、自分で切ったヒノキの丸太片やチャンバラ用の細い棒などを、本日の成果としてそれぞれ持ち帰っていたようだ。このような体験学習の催しは来年以降も続けたいと思う。

【体験学習担当者】 斧田一陽 薦田佳一 金井良碩

【体験学習参加者】 茂木完治 山内幸子 久保和恵 黒田記代 水谷透 野口恒雄 秋枝秀實 中山和美 野口蒼生 秋枝千尋 中山敬太
計14名

2015年12月3日(木)9:30~15:00

天候が怪しかったので予定していた作業場所を変更し、近場の45林班「ろ3」地区の南部、原大橋バス停へ下る登山道と尾根筋の作業道の分岐点から南西方面への斜面一帯の整備をすることにした。この辺りは天然林で、

マツの枯木や枯れ枝、倒木が目立ち、全体的な印象としては薄暗い感じで以前から気になっていたところである。

太いマツの枯木6~7本の処理や、枯れ枝・落枝、倒木類の集積、繁茂し過ぎたヒサカキの除伐等、林床整備が進んだので林間が非常に明るくなった。作業後、下の登山道に降りて上方を眺めると、尾根筋まで見通しが効くようになっていた。今日の作業面積は0.1~0.15ha程度で広くはないが、細長い斜面なので、こういうところを集中的に整備する、というのは作業効果がてき面に現れてくるので作業のやり甲斐がある。

【参加者】

宮本廣 中村賢三 倉谷邦雄 石原順子 武田壽夫 杉本佳英 斧田一陽 秦康夫
計8名

2015年12月20日(日)9:30~13:00

前回一部手掛けた天然林の整備と登山道・作業道を整備した。午前中だけの作業だったが、諸道具を駆使して松の枯損木10数本を処理できたし、また登山道に横たわる径30cm程の松の倒木や、頭上に垂れ下がって今にも落ちてきそうな太い枯れ枝をなんとか処理出来たのはよかった。つる切りや水切り溝の整備、小灌木類の伐採整理等も併せて行い午前の作業を終了した。

本山寺山のご住職に、今年の作業無事終了の挨拶を済ませたあと、午後は「美人の湯・祥風苑」へ移動して遅めの昼食会兼、今年1年を振り返っての反省会とした。

【参加者】

阪下幸一 井上達雄 斧田一陽 倉谷邦雄 武田壽夫 福井誠 小櫃徹夫 黒山泰弘 薦田佳一 秦康夫

計10名

スケッチ同好会 第一回グループ展開催の ご案内

会 期 2016年4月12日(火)~16日(土)

9:30~17:30(初日13:00~、
最終日~16:00)

場 所 大阪市総合生涯学習センター
ギャラリーA

(大阪駅前第2ビル5階 ☎06-6345-5000)



「東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座」に参加して

田島聖子

東お多福山草原保全・再生研究会の活動の一環として平成25年度より、神戸県民センターに協力して「東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座」が始まりました。一昨年、昨年と受講しましたので報告させていただきます。講師は、いずれも橋本佳延氏(兵庫県人と自然の博物館主任研究員)です。

◇平成26年度(受講者:12名)

6月28日(土)座学

全国の草原保全について-松村俊和氏(甲南女子大学)

東お多福山草原について-橋本佳延氏

9月6日(土)現地観察会

再生しつつあるススキ草原の現地観察

10月16日(木)ガイド手法講座

現地にてガイドに必要な知識、指導法のレクチャー

10月18日(土)セミナー開催

受講生による現地セミナー(模擬ガイド)

*兵庫県が募集した一般登山者20名に対し受講生5名がコース毎に分担してガイド実習

11月16日(日)まとめ

修了証書交付、東お多福山草原・保全研究会との懇談

◇平成27年度(受講者:21名 継続受講者4名含む)

前年度と同じプログラムにより6月27日(土)、8月29

日(土)、10月3日(土)、10月12日(月)、11月28日(土)に実施された。

最後に少し感想を。

ガイドなんてとんでもない!と思いながら受講いたしました。1年目は要領を得ないまま実際のガイドもすることになり、しかも資料を受け取ってから2日後の事で緊張を強いられました。さすが2年目ともなると多少余裕もでてきてか少し楽しく取り組みましたが、同時にまだまだ学ぶことの多さにも気づき、焦らず場数を踏むことの大切さを痛感いたしました。

追悼 松浦輝夫さんのこと

米本隆夫(会員番号8011)



2015年11月6日、白血病のために松浦輝夫さんが亡くなった。81歳。思えば私が早大山岳部に入ってから50年近いお付き合いである。同じ大阪を故郷に

する先輩として、14歳年長の兄貴のような存在であり、親しくご指導をいただいた。

松浦さんは、1965年の早大ローツェ・シャル遠征に副隊長格で参加。登頂こそ逸したがアタック隊のリーダーとして当時の大学単独での最高到達高度を記録した。この遠征では、隊員の転落遭難事故が発生、7000mを越える高所から全員が総力をあげて救出、生還させた。極限状態の中で繰り広げられた救出活動はのちのち私たち後輩の誇りとなった。松浦さんはその中心にあって、傷ついた仲間のために命がけのビバークを敢行した。

私が入部したのは翌66年である。その秋には例年通り、箱根で現役OB合同のラグビー合宿を行った。松浦先輩も大阪から参加、仙石原から芦ノ湖の湖尻までの早朝マラソンに参加した。復路、湖尻から「オープン走だ!」の掛け声とともに競争が始まった。新人で鈍足の私は背後からあつという間に先輩に抜き去られた。松浦さんを意識したのはこの時が初めてであった。大きくて強い人だった。

1970年、私が4年の時に、山岳部は、ネパールでの海外学生合宿を計画した。目標はダウラギリの衛星峰ともいべきツクチェ・ピーク6920mである。この登山で私は3人の第1次アタック隊の指揮を任された。しかし私たちは、登頂はしたものの帰路日没を迎え、疲労、滑落、ビバークの末、2年生部員のひとりが墜落死する結果を招いた。痛恨の遭難事故。リーダーとしての私の責任……。学生を育て、立派な社会人として送り出すのが山岳部の目的である。学生の山での死は絶対にあってはならないことだ。部は休部を余儀なくされ、その後活動の停滞が長く続いた。

ツクチェ遭難。それは、まさしく松浦さんが、早稲田を代表して日本山岳会エベレスト登山隊に加わって活躍していた時期と重なる。事故を起こしたのはモンスーン前の4月30日、松浦さんが植村さんとエベレストの頂上に立ったのは、11日後のことである。同じネパールでの事故。エベレストのベース・キャンプにも知らせが届いたはずだ。先輩の快挙を前にして、申し訳のないことだった。

ツクチェ遭難から立ち直り、20代の若手を中心とするOBがパキスタンのラカボシに登頂したのは9年後である。私たちはその勢いに乗って、未踏のK2西稜登攀計画を打ち出し、OB会(稲門山岳会)に働きかけた。80年の秋である。彼我の力の差が大きすぎるとの理由で、OBたちの判断は計画の却下に傾いた。しかし、松浦さんは若いOBたちの意欲を買って、計画の推進を主張した。そして自ら計画の責任者として参加を表明してくれた。

私自身は10年前の事故の当事者として、後輩たちが行くなれば万難を排して参加することを心に決めていた。その日から、K2計画は実現に向けて動き出した。今から思えば夢のような日々であった。松浦さん直近の先輩や後輩が東京の準備事務所に集まって、資金計画、登山計画に日夜を忘れた。松浦さんが関西だということで、関西財界のメンバーにも寄付をお願いすることができた。奉加帳をもって会社、企業を回ったが、「なぜ東京の早稲田の計画に関西から金を出さねばならんだ」とおこごとを頂戴したこともあった。今にして思えば楽しい思い出だ。

81年6月19日、サボイア氷河の5350mにベース・キャンプを設け、8月7日、苦闘の末、2人の隊員が登頂に成功した。頂上攻撃の前日、松浦さんは氷河の水で水ごりをし、隊員の無事生還を祈った。私もアタック隊のサポートを命じられ、8200mのビバークサイトで仲間の藪田隊員と無酸素露営するなど、アタック隊の無事下山に寄与できたことは生涯忘れられない思い出である。3日後、全隊員がBCに下山、夕刻迫る頃、迎えに出てくれた

松浦さんの胸に飛び込んだ。感謝でいっぱいであった。「米本、良かったのう」。松浦さんの、短いが温かいねぎらいの言葉に、昔の事故の無念さが蘇る。周りもはばからず声をあげて泣いてしまった。

松浦さん、81年の人生は短い。あのK2から34年、先輩を襲った不治の病を前に、何度も病院を訪ねた。亡くなる2週ほど前の夕方、病室を訪れた。私がベッドの脇に座っているのに気がついた先輩は、「暗くなるから早うお帰り」と私に言った。死の床に在って、どこまでもやさしく、気配りをしてくれる松浦さん。失って、その存在の大きさ、大切さを思う日々である。

【松浦輝夫氏略歴】

1934年大阪生まれ。会員番号5107。1970年、JACエベレスト登山隊に参加し植村直己とともに日本人初登頂。第7回秩父宮記念学術賞受賞。1981年、早大K2登山隊の隊長を務め西稜ルートからの登頂を指揮。同年朝日体育賞(現・朝日スポーツ賞)受賞。

■□■ 自己紹介 (皆さんよろしく)

還暦過ぎでのアルパイン修行

永井 和(会員番号15628)

2014年に入会した永井です。山登りを始めたのは1960年代の半ば、まだ高校生の頃でした。一年生の春、大糸線の車窓から白銀の後立山連峰が朝日に輝くのを見て、魅了されたことがきっかけでした。結婚して子供が生まれるまで十数年間登り続けましたが、山岳部や山岳会には所属せず、親しい友人と気ままに登っていました。京都大学入学時には、山岳部の入部説明会には行きましたが、結局入部せずに終わりました。回数はそれなりにこなしましたが、高度な登山に必要な基礎技術を習得できなかったもので、最高グレードは、無雪期では湯俣からの北鎌尾根、涸沢定着の前穂北尾根、積雪期では5月連休の南八ヶ岳縦走です。2月の宝剣、5月の劔にも行きましたが、残念ながら登頂はかないませんでした。

十年以上のブランクの後、2002年满51歳で登山を再開し、現在にいたっています。当初は妻と二人で、夏の高山縦走(小屋泊)と近くの京都北山や比良山等のハイキング、冬のスノーシューハイクなどをしていました。白山、常念・蝶、笠、乗鞍、奥黒部(双六・三俣蓮華・鷲羽・

雲ノ平・黒部五郎)、赤石・荒川、塩見、聖・上河内、甲斐駒・仙丈、御嶽、白馬三山に登りました。そのうちだんだんと欲が出てきて、2007年からは山岳ガイドのサポートを受けて、バリエーション入門コースにも足を向けるようになりました。小同心クラック、バットレス第四尾根、前穂北尾根・明神岳主稜縦走、八ツ峰六峰Cフェース・八ツ峰上半縦走に行きましたが、とくに故尾崎隆氏のガイドで登った第四尾根は忘れられない山行となりました。

身の程知らずにも次の目標はチンネ左稜線と定め、技術を身につけようと、2010年末に大阪府山岳連盟パーソナル委員会に参加しました。しかし、翌年六甲地獄谷で滑落して骨折し、ほぼ一年間登山から離れるハメとなりました。「チンネ左稜線はお前には無理」との山の神様のおはからいだったのでしょう。それでも、アルパインクライミングの基礎技術を学んでおきたいとの思いから、2013年にパーソナル委員会アルパインチームに参加し、一年間泉州山岳会の有永寛氏の指導を受けました。還暦過ぎでの訓練はなかなかたいへんで、己の限界をやというほど知らされました。残念ながら、一人前のクライマーにはなれませんでした。多くのことを学びま

した。これからも登り続けたいと思っています、よろしく
お願いします。 (ながい・かず 2015/12/21受)

入会メッセージ

武藤文隆(会員番号15629)

私は昭和24年生まれの66歳です。職業は医師で、京都

在住です。以前に一度日本山岳会に入っていた事があり
ましたが、仕事が忙しく退会しました。今回、関西支部
80周年記念のナンガマリ遠征隊の同行医師として参加す
る為、再入会しました。60歳を過ぎてから海外トレッキ
ングと山岳写真を楽しんでいます。よろしくお願いま
す。 (むとう・ふみたか 2015/12/17受)

Room日録 2015・2016年

11月 4日(水) 支部報編集委員会

11日(水) 水曜会

16日(月) 支部事務業務

29日(日) 事務引継ぎ(会員管理)

12月 1日(火) 第11回ヒマラヤ塾

3日(木) 支部事務業務

スケッチの会打合せ

8日(火) 財務委員会

9日(水) 水曜会

10日(木) レスキュー講座教材搬入
支部事務業務

13日(日) レスキュー講座教材搬出

14日(月) 支部事務業務

16日(水) 支部報162号発送

支部委員会打合せ

17日(木) レスキュー講座(座学)

21日(火) 入会希望者面談

28日(月) 支部事務業務〔30・31
も実施〕

1月 7日(木) 支部事務業務

9日(土) 第12回ヒマラヤ塾
入会希望者面談

11日(月) 支部事務業務

13日(水) 80周年募金事務
水曜会

16日(土) 支部事務業務

18日(月) スケッチの会

20日(水) 支部事務業務
拡大総務委員会

22日(金) 支部事務業務

〔25・27・29も実施〕

受贈一覧

(2015.11.1～2016.1.31受理分)

山岳大阪 No.204-206 大阪府山岳連盟
 創立四十周年記念誌 日本山岳会山水会
 登山月報 第560-562号 日本山岳協会
 日本山岳会「高尾の森」通信 vol.60
 日本山岳会北海道支部50年のあゆみ

東へ350キロ：オホーツク分水嶺完全踏査 日本山岳会北海道支部
 兵庫山岳 第578-584号 兵庫県山岳連盟
 登山月報 第561号 日本山岳協会
 日本山岳会支部報
 ・秋田山岳 No.98.99
 ・宮城山岳通信 第6号
 ・栃木支部報 8号
 ・群馬支部報 第3号

・千葉支部だより 第32・33号
 ・[東京] たま通信 第22号
 ・埼玉支部報 第16号
 ・富山支部会報 No.100
 ・信濃支部報 第62号
 ・東海支部報 No.144
 ・[京都・滋賀] 支部だより No.121
 ・JAC Hiroshima 第57・58号
 ・東九州支部報 第71・72号
 ・宮崎支部報 第54・55号

2016年度4月～6月 支部山行計画

※申込先は、後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

16-1 関西支部海外トレッキング

「ベトナム ファンシーパン 3143m」
 日 時：3月28日(月)～4月4日(月) ※申込締切り済

16-2 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる32

「南山城 鷲峰山682m」
 日 時：4月28日(木)
 コース：京阪宇治駅＝維中前バス停＝信西塚＝五丁の石柱＝鷲峰山＝釈迦岳＝茶宗明神社＝湯屋谷＝工業団地口バス停＝新田辺駅
 集 合：京阪電車宇治駅改札口 9時50分集合
 地 図：2.5万分の1「宇治」「朝宮」「笠置山」
 備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
 歩行距離約11km 歩行時間約4時間30分
 申込み：4月21日迄(担当：久保和恵)

16-3 関西支部県境縦走40

日 時：4月30日(土)・5月1日(日)
 コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
 HP等で確認してください
 備 考：詳しくは申込者に連絡します
 申込み：4月16日迄(担当：山内幸子)

16-4 4000山グランプリ

「高森山から箱岩山・白草山・三国山」
 日 時：5月3日(火)～5日(木)
 コース：下呂駅＝新開＝高森山＝箱岩山＝白草山＝三国山＝神明＝下呂駅
 地 図：2.5万分の1「宮地」
 備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行 一般参加可
 山岳保険加入が必須
 申込み：4月20日迄(担当：重廣恒夫)

16-5 京都府最高峰

「皆子山 971.5m」
 日 時：5月14日(土)
 コース：JR堅田駅＝平バス停(東尾根)皆子山＝平バス停＝JR堅田駅
 集 合：JR堅田駅改札口前 8時40分集合
 地 図：2.5万分の1「花背」
 備 考：歩行距離 約8km 歩行時間約4時間
 申込み：5月3日迄(担当：久保和恵)

16-6 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる33

「三輪山 567m」
 日 時：5月19日(木)
 コース：JR三輪駅＝大神神社＝狭井神社＝三輪山(往復)＝JR三輪駅
 集 合：JR三輪駅改札口前 10時10分
 地 図：2.5万分の1「桜井」
 備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
 歩行距離約5km 歩行時間約2時間30分
 三輪山入山料 300円必要
 申込み：5月12日迄(担当：久保和恵)

16-7 4000山グランプリ 四国支部との合同山行

「奥工石山・白髪山」
 日 時：5月21日(土)・22日(日)
 コース：21日 奥工石山荘＝奥工石山＝竜王峠＝山荘
 22日 山荘＝竜王峠＝白髪井田(往復)
 地 図：2.5万分の1「佐々連尾山」「本山」「野鹿池山」
 備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行 一般参加可
 山岳保険加入が必須
 申込み：5月10日迄(担当：重廣恒夫)

16-8 関西支部県境縦走41

日 時：5月28日(土)・29日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：5月14日迄(担当：山内幸子)

16-9 4000山グランプリ

「中央アルプス 宝剣岳から三ノ沢岳・将基頭山」

日 時：6月4日(土)・5日(日)

コース：駒ヶ根駅＝しらび平―宝剣岳―三ノ沢岳―将
基頭山―駒ヶ根駅

地 図：2.5万分の1「木曾駒ヶ岳」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

80周年記念海外登山のトレーニング山行

申込み：5月25日迄(担当：重廣恒夫)

16-10 しっかり歩こう

「北摂 中山から大峰山・廃線跡から生瀬駅」

日 時：6月12日(日)

コース：山本駅―最明寺滝―中山―大峰山―桜の園―
旧福知山線廃線跡―生瀬駅

集 合：阪急宝塚線山本駅 8時30分

地 図：2.5万分の1「武田尾」「宝塚」「広根」「伊丹」

備 考：地図を見ながら約21キロ歩きます
ヘッドランプ必携

申込み：6月2日迄(担当：山内幸子)

16-11 熊野古道伊勢路シリーズ 1

「伊勢神宮から田丸」

日 時：6月16日(木)

コース：五十鈴川駅―伊勢神宮内宮―外宮―万金丹小
西屋―柳の渡し―田丸城下―JR参宮線田丸
駅

集 合：近鉄電車鳥羽線五十鈴川駅 10時32分

地 図：2.5万分の1「伊勢」

備 考：伊勢神宮と熊野速玉大社を結ぶ熊野古道伊勢
路(約160km)を6回に分けて歩きます
第一回目は熊野古道(街道)の入口である旧田
丸城下まで 本シリーズ唯一の日帰りコース

申込み：6月9日迄(担当：久保和恵)

16-12 関西支部県境縦走42

日 時：6月25日(土)・26日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：6月10日迄(担当：山内幸子)

16-13 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる34

「北摂 大野山」

日 時：6月30日(木)

コース：日生中央駅＝西軽井沢バス停―水場―大野山
―アルプスランド(岩めぐり)―柏原口バス停
＝日生中央駅

集 合：能勢電鉄日生中央駅改札口前 8時50分

地 図：2.5万分の1「福住」「木津」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります
歩行距離約8km 歩行時間約4時間

申込み：6月23日迄(担当：久保和恵)

各山行は
担当委員もしくは支部宛にお申し込みください
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中**1stステップ**

初級『地図とコンパスを持って六甲山を歩く』

4月19日(火) 安全・快適トレッキング(座学)

5月10日(火) 岩倉～焼山～西鎌倉山

6月7日(火) 三国ヶ岳～527.8m峰～三国ヶ嶽

7月5日(火) 山王山～扶養ヶ岳～峯ヶ畑

中級『沢歩き』

4月19日(火) 安全・快適登山術(座学)

5月12日(木) 赤子谷～岩原山～ナガモッコク尾根

6月16日(木) 石切道から大月地獄谷～五助山

7月7日(木) 三ツ下谷～石楠花山～双子山

上級『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

4月19日(火) 安全・快適登山術・岩登りの基礎
知識(座学)

5月24日(火) 蓬莱峡周辺

6月21日(火) 百丈岩周辺

7月26日(火) 不動岩周辺

2016年4月～6月 自然保護行事

1 日本山岳会関西支部本山寺山の森（本山寺山森林づくりの会活動）

活動日：4月7日(木)・4月17日(日)・5月5日(木祝)・5月5日(木祝)・5月15日(日)・6月2日(木)・6月12日(日)

作業内容：林床・天然林・人工林整備 天然林除伐 作業道・自然歩道・登山道整備など

2 東お多福山ススキ草原復元活動

- ・4月16日(土) 全面刈り
 - ・5月25日(水) 植生・登山道保全調査 選択的刈込
- ※東お多福山ガイド養成講座 全5回開講定員60名
(初回開講 6/25 受講希望者は要問合せ)

3 自然観察会

- ・5月5日(木祝) 関西支部本山寺山の森

4 やまみち巡視保全活動

- ・5月15日(日) 関西支部「本山寺山の森」里道巡視保全
- ・5月25日(水) 東お多福山芦屋登山道保全調査

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556 / 090-4037-4542

※締め切り：開催日の一週間前まで

※集合：本山寺山の森 JR高槻駅北口アルプラザ前
東お多福山 阪急芦屋川駅
いずれも 8時50分

スケッチ同好会 例会の報告とご案内

第12回 案内

日時：平成28年5月7日(土)～10日(火)

集合：上高地バスターミナル 15時

行先：(公)日本山岳会 上高地山岳研究所

持ち物：水彩画を主とする画材一式、カメラ、折り畳み椅子、雨具、防寒具、ヘッドランプ、ストック、食糧(現地で自炊) 飲料など

費用：会員宿泊費3000円×泊数(条件により割引きあり)交通費は各自負担

申込：平成28年4月5日(木)締切 久保和恵
e-mail: unclertorys05-kazu@nifty.com
電話 079-565-0530 携帯 090-2598-9226

備考：詳細は後日、参加申込者に通知

※登山のみを目的とされる方は、お世話いたしかねますので、各自で山研にお申し込み願います。

浦上芳啓 (会員外) 佐藤知子 濱村泰子 中田富美子 ほか1名 計17名



甲山神呪寺石仏道より「甲山を背に神呪寺を望む」画 浦上芳啓

第9回 報告

日時：平成27年11月4日(水)晴

行先：甲山・神呪寺石仏道(甲山森林公園)

【参加者】野村哲夫 岡田輝子 金井良碩 岩崎しのぶ 岐部明弘 小寺佳美 播戸日出生 中谷絹子 松上美代子 森沢義信 横山規江 松村文子

第10回 報告

日時：平成28年1月18日(月)雨

行先：支部ルーム (作品修正およびグループ展の詳細打ち合わせ)

※悪天候により当麻寺周辺の計画を変更

【参加者】野村哲夫 浦上芳啓 岡田輝子 金井良碩 久保和恵 小寺佳美 薦田佳一 播戸日出生 松上美代子 森澤義信 横山規江 岩崎しのぶ (会員外)浅田博三 計13名

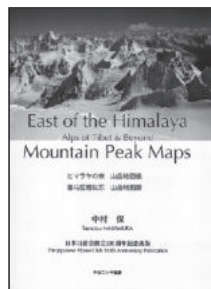
ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町一五【本体価格】

電話 0757231011
FAX 0757231009



◎待望の日本初、インド・ヒマラヤの本格的総括書
インド・ヒマラヤ
日本山岳会東海支部 編著
A5判上製 650頁 6000円
東部カラコルムからアッサムまで、東西約千kmに広がるインド・ヒマラヤを13の山域に大別して624座を厳選し、各山域の概説と入山事情、概念図と写真、登山記録と登山史、文献などを集約した。



◎冒険者に残されたチベット東部・横断山脈の全貌
ヒマラヤの東山岳地図帳
チベットのアルプスとその彼方
中村保著
菊倍判上製 352頁 10000円
この地図帳は、世界の登山界では例のない画期的な業績と言えるだろう。中国でも出ていないきわめて精密詳細な地図と、まったく未知であった山、山群の写真。次の世代に残す価値のある作品だ。……斎藤惇生



◎全国四千山を網羅した最新・最大の「山の百科事典」
改訂新日本山岳誌
4月末刊行!!
日本山岳会 責任編集
菊判上製 クロス装 函入り 2016頁
写真・地図多数 18000円
震災や噴火、水害などによる地形や登山道の変化、平成の大合併による地名変更、最新測量法による数値改定など、日本山岳会が山にまつわるすべての情報を再確認・再検証した、待望の改訂版!

お花畑と歩き応えある登山が魅力。夏季限定の関空発着直行便を利用。

ポーランドの最高峰に登頂。豊かな歴史・文化にも触れる。

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
カムチャッカ半島アバチャ山登頂と花のバチェカズエツツ山麓 4・5日間

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
ポーランド最高峰リシ山登頂と世界遺産の街クラクフ、ワルシャワ 8日間

| 出発日～帰着日 | 旅行代金(大阪発※) |
|-----------------------|------------|
| 7/ 9(土)～7/13(水) [5日間] | ¥358,000 |
| 7/13(水)～7/16(土) [4日間] | ¥306,000 |

| 出発日～帰着日 | 旅行代金(大阪発着) |
|-----------------|------------|
| 7/16(土)～7/23(土) | ¥442,000 |

※7/9発・5日間は大阪発着、7/13発・4日間は大阪発東京着となります。

夏季限定の直行便を使い、秘境カムチャッカへ。現地でも人気のアバチャ山登山は健脚向けですが、眺望と達成感は格別です。短い夏に咲き競う花々も魅力です。



▲アバチャ山(2,741m)の頂を目指す

ポーランドとスロバキアの国境に広がるタトラ国立公園を訪れ、ポーランド最高峰リシ山の頂を目指します。旅の前後では、ワルシャワとクラクフで市内観光もお楽しみいただける内容充実のツアーです。



▲リシ山(2,499m)登山中の風景

—◇お知らせ◇—

「山旅フォト倶楽部」のご案内

2016年春から「山旅フォト倶楽部」がスタート。山旅を楽しむながら、感動の一コマをとっておきの一枚にしたい。そんな思いをお持ちの方におすすめの倶楽部です。

◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 日本山岳会 賛助会員
アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3(TCF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆昨年12月の水曜会で宗實慶子さんから日本初の女性「ヒマラヤ登山隊」のお話を映像と共に拝聴しました。半世紀前の1960年のことです。逆境にめげず、苦境を乗り越えて勇敢にもディオ・ティバ峰(6001m)の登頂を果たされたそのパワーに、格別な意志の強さを感じました。加えて、乱れぬチームワークと何よりおしゃれを忘れなかった彼女たちの心の余裕が見せる表情は、浣刺として美しく魅せられました。現在もその精神力は衰えていないように思います。☆毎月一回開催されている「水曜会」、とっておきのお話が聴けるのは嬉しいです。(久保)

発行日 2016(平成28)年3月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 金井良碩
編集 加藤芳樹 久保和恵 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社
大阪市北区堂島2-2-28